

月の採り葉の木

頃む摘の葉の桑のさのえの蚕



新緑の美しい季節となりましたが陽射しが強く真夏日が多い様に感じます。

今年の夏はどうなるのでしょうか。ここ数年の暑さは、生活を変えなければならぬ程の変化をもたらしています。

先の震災の後遺症はまだ続き、特に電力の問題は生活を根底から変えなければならぬ、人類は重大な選択を迫られていると感じます。

さてはぐるまも、暑さによる計画変更を迫られた出来事があります。

「登山」活動です。例年9月夏休みが終わり、夏山の最後の時期に、八ヶ岳方面の山々を制覇してきました。

山の練習は8月が最終段階で

登山靴は馴染んだか・体力は付いたか・グールの連帯力はどうか等、日々の練習によって力をつけていくのですが、

7月8月の暑さは戸外の実地練習をさせてくれません。

里山や緑地の涼しそうな場所を選んで、不整地の歩き方などの練習をしますが、それも難しくなり、練習不足のまま八ヶ岳には行けなくなりました。その為、関東近辺の山で練習が十分できる10月に変更しました。

長野県【赤岳山荘】【白駒山荘】の山荘の皆様にはどれほどお世話になったことか、長野の夏山のすがすがしさや、山荘の方たちの温かい励ましで、30数年間の登山活動が成り立ってきました。

長野のおいしい山の空気が恋しくなったらぶらりと出かけて行きましょう。はぐるまの登山の源泉を求めて・・・。

ついに今年の日

登山合宿計画始動

登山合宿実行委員長

瀧島 亮

No.87

2015年5月29日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区

菅馬場 1-18-17

Tel 044-946-1308

去年、一昨年と東北旅行やきょうされん全国大会があったため日帰りで行われてきた登山でしたが、今年度は2泊3日の登山合宿を10月初旬に計画しています。4月に職員の登山合宿実行委員会が組織され、山に詳しいボランティアの方に候補を挙げてもらい、さっそく下見に行ってきました。はぐるまの仲間たちが精一杯力を発揮できることを条件に考え、あれでもない、これでもない複数の山に登ってきましたが、山梨県にある「大菩薩嶺」という山が第1候補に挙がってきました。川崎からは車で2時間30分程の場所があり、標高は2,000メートルと昨年より石老山に比べるとグンと高くなります。一般的な山行時間は4時間と少しく、木の根が張った不整地や、ゴロゴロした岩場地帯、頂上付近の稜線歩きや各所にある富士山の

ビュースポットと、特徴のある山です。

また山荘も登山口にあり約一〇〇名収容する事ができ、仲間全員が一丸となって合宿に取り組める環境でもあります。山荘にはキャンプ場設備が整っていて、自炊やイベント等様々な案が実行委員会議で提案されています。仲間たちには3年ぶりの登山合宿であり、職員もまた3年ぶりの合宿です。初めて本格的な登山を経験する仲間や職員も少ないので、入念な下見が必要と考えています。まず職員はこの山を十分熟知する必要があります。5月から下見が開始されていますので、あと数回は実施し、仲間の体力・技能を分析しながら、もちろん安全第一を考え登山合宿を成功させる為に、はぐるま職員会が一つに結集し、合宿に臨みたいと思っています。



大菩薩嶺から望む富士山！

特集・ 思いを知りたい

東田直樹さん「君が僕の息子について教えてくれたこと」のビデオ鑑賞を行いました。

（平成26年度テレビドキュメンタリー部門
大賞受賞作品）

東田さんは自分の心の内を綴ったエッセイ「自閉症の僕が飛びはねる理由」を発行。そのエッセイが自身も自閉症の息子を持つイギリス人の作家デビット・ミッチェル氏の見にとまり、世界20か国以上で翻訳されています。はぐるまの利用者の約40%は自閉の方ですので、日々接している人たちの顔が浮かび、東田さんの一言一言が身に迫ってきたようです。

（研修感想文一例）○「コミュニケーションを取る事をあきらめてはいけない」「コミュニケーション手段は必ずあるという事」を教えてくださいました。★「利用者さんをもっと知りたい」と思いました。△「支援員として世話をするというより、自分たちも彼らとの生活を楽しんでいるんだよと、それとなく示していくことが大切だと思いました」◆「ただただ感動して涙が止まりませんでした」

続・自閉症の僕が跳びはねる理由

エスノアール出版より 抜粋

跳びはねるのはなぜですか？

思い通りにならないときだけでなく、嬉しいときにも僕は跳びはねます。今の僕にとって、それは感情を自分の中で整理するためのものだと思います。例えて言うならこんな感じですよ。

「大切にしている気持ち」という静かな水面に、石を投げられて波紋が広がります。波紋はなかなか静まらないから、いらいらして自分でかき混ぜてしまいます。すると、ますます水面は揺れるので、何とかしなければと、今度は跳びはねて上下に揺らしてしまうのです。それが、跳びはねる状態だと思います。

どのようなことで感動しますか？

僕は、自然や絵画、文化遺産などにとっても心を惹かれます。人から「きれいだから、見てごらん」と指をさされても、それが目に入るだけで胸がいっぱいになるので。しかしそれをじっと見たり、長く見続けたりすることはできません。その場からすぐ逃げたり、嬉しそうにしていなかったりするので、他人には僕が感動していることがわからないと思います。僕は自然でも人が造ったものでも、その素晴らしさに圧倒されるのです。その場にいってもたつてもいられないくらい感動します。今年もたくさん桜が咲きました。僕は公園に行っても、満開に咲く桜を視界のはしっこに少し入れるだけです。そうしなければあまりの美しさに僕の気持ちはくずれしてしまうからです。変わらない幸福というものがあるとしたら、繰り返される命の輝きではないかと僕は思っています。

職員研修にこの題材を用いた理由は、著書を読んだ時より、テレビのドキュメンタリーで放送された番組で、動く東田さんを見た時の鮮烈な衝撃を皆さんと共有したからです。自閉症の彼が話す言葉一つ一つが迫り染みってくる衝撃、それを目の当たりにした時、私は口をぽかんと開けたまま、一時間テレビに見入っていました。

もう一つは「彼らは何を言いたいのか？」を日常的に考えながら支援をすることで、虐待は防止できるはず。という思いがあります。「職員の思いどおりにならない」「いう事を聞かない」という一方的な支援側のスタンスではなく、「なぜそうするのか」と否定より思考を心掛けた支援が必要と感じているからです。(本部・高木)

私たちにも言いたいことがある

仲間自治会で、「職員に言われて・されて嫌だったこと」を聴きました。定例会では困ったことなどの話しはしますが、今回は対職員に的を絞って聞いてみました。投げかけは「今職員は虐待について研修しています、皆さんが職員に言われて・されて嫌な思いをしたことについて教えてください」

★朝の会で職員がおしゃべりをしていて、集合してくれない。★職員のいうとおり電車に乗ったけど、引つ張られて降ろされた。棒につかまっていたので手が痛かった ★相性の良くない仲間と同じホームになったり、一緒に活動に行かされて嫌だった。★クツキーの試食を職員がしていたので、どこから頼まれたか聞いたが教えてくれなかった。

仲間自治会のリーダーは自分が感じた事を言葉で表現ができます。また言葉の発信が難しい仲間の代弁者として語る事もできます。

この仲間からの発言を、職員は真摯に受け止め、仲間と向き合っていかなければなりません。

Tさんの涙

私は「ヘルパーステイションみんな」に所属するヘルパーです。一週間に一度の休日は何をして過ごすのかを考えることは、なかなか難しく本人と相談して行先や、活動を定めることを大事にしています。

4月の第1日曜日は映画観賞と決まり、新百合ヶ丘へ出かけた時の事です。あらかじめ観るものを決めて行きましたが、4月は新しいメニューが変わっていて、予定したものが夕方遅い上映になっていました。さて困った変更！弱い仲間たちに了承してもらい、

アニメから青春ドラマ「唇に歌を」になんとか変更しました。

恋人の死のショックでピアノが弾けなくなったピアニストが、母校(島の学校)の代用教員を頼まれ、生徒に合唱の指導をすることによって、心を開き立ち直っていく姿を描いた物語でした。アニメやヒーローが出てくる戦隊ものではないので館内で寝てしまう「お休みタイム」になるのも仕方がないと覚悟しましたが

主人公の女優さんが若くて美しい女性の事もありか？熱心に見入っていました。

驚いたことは、クライマックスの場面で、Tさんが涙を流して観ていたことです。大抵の人が「ホロツ」と涙腺が緩む場面で、Tさんも静かに泣いていたのです。本人は何故涙が出たのかを説明することはできませんが、心の琴線に触れたのでしょうか。

何が仲間たちの心に響くかの予測は難しいですが、初めから理解できないと決めつけず、いろいろな事を経験する事が大切だと、再認識させられた、貴重な出来事でした。

★以上のような報告をヘルパーから受けた時、自閉の傾向が強く、どのような時でも泣かないTさんに起ったことには、にわかに信じられず、本当に驚いたと同時に、ヘルパーさんの視線に仲間を知らうとする気持ちと優しさに感銘をうけました。(みんな管理者 橋本)

稗原農園サポーターズが大活躍中です！

はぐるま工房の農園（総称）はぐるま稗原農園を宮前区水沢の地に開設してから三度目の夏を迎えます。

このところの連日の猛暑にグツタリとしている野菜と仲間たちですが、年間を通して一番の繁忙期を乗り越えることで、仲間たちと共に成長していきたいと思えます。

4年前、麻生区片平で一反歩（300坪）の畑をお借りしていた時から比べると、現在の活用させていただいている農地は麻生区早野のハーブ園と合わせて約7倍の面積にもなります。とはいっても、はぐるまの会の農業技術（栽培技術）が7倍に向上した訳ではありません。

都市部の農家さんと肩を並べるまでになった規模の農地での野菜とハーブの栽培を支えてくださっているのは、近隣地域の協力者の方々と利用者さんご家族が中心となって構成されている「はぐるま稗原農園サポーターズ（援農ボランティア）」の皆様です！

毎週、月曜日と木曜日の午前中に

仲間たちと職員の力だけでは難しい、繊細な作業と力仕事等の農業活動全般を応援していただいたおかげで、これまで、野菜の作付

け適期や重要な栽培管理工程、収穫適期を逃しまつていた長年の課題をサポーターズの皆様に一気に解決していただきました。

この場をお借りいたしました。サポーターズメンバーの皆様は心より御礼申し上げます。

皆様のご支援のおかげで、現在では、半年前に開設をした多摩区普馬場のアンテナショップ「はぐるまの小さなお店」と「第2作業所の店頭販売」に必要な野菜の供給が可能となり、売上額も4年前に比べ約8倍の金額となりました。

福祉施設の農業活動は、まだまだ課題が山積み現状ですが、はぐるま農園産の元気野菜を目当てに訪れてくださるお客様の為に、仲間たちとサポーターズの力を結集して、誠に農業を楽しんでいきたいと思えます。

稗原農園サポーターズ大募集！

毎週、月曜日と木曜日の9時～12時のお時間ではぐるまの仲間たちの農業活動を応援していただけるボランティアさんを大募集しています。

※採れたて新鮮野菜のお土産付き

はぐるま農園産の野菜を使用した自家製弁当(有料)の予約も可能です。

農園ならではの仲間たちとの色々なイベントも開催していますので、お時間がありましたら気軽にお越しください。

連絡先 はぐるま工房（稗原農園）

川崎市宮前区水沢2-10-2

TEL 044-920-9411



大活躍中のサポーターズメンバーと仲間たち



農薬を一切使わずに育てた新鮮野菜のお土産付きです！皆様のお越しを心よりお待ちしております。